

還暦・古希・喜寿そして
傘寿談議
文・写真 (株)地域サービス代表取締役
永井 英彰

図書館で新島譲の資料閲覧
ポーツマス条約結んだ地を探す

NY・ボストン編

4月16日午後5時、ワシントン桜祭りに参加した後、鳴門の若松善英さん、米国在住の男女と筆者はレンタカーでニューヨークへ向かった。約400キロの距離なので特急列車なら3時間、高速バスなら4時間半だが、レンタカーでは途中で休憩や食事をして午後11時にはホテルへ着くと見ていた。ところが、ガス欠問題が起きガソリンスタンドを探するのに時間が掛かり、翌日午前2時にやっとホテルに到着した。



サンプルの干し物・カボチャやブロッコリーも



米や雑穀のコーナー



ジャズ・ブルーノートの舞台



カクテル・ブルーノートを手に若松さん(右)と



賀川豊彦も留学したプリンストン大学

国際電話で1時間

17日は自由行動のためセントラルパーク南面まで歩く。すぐ前の大型店でデイズ製のウインドブレーカーを購入(2万円余)、続いて帽子店に入ったら日系ハーフが店番をしていて藍染の帽子を購入(4千4百円)。日本の通販で仏メフィスト製の靴を探したら、サイズが揃っていないので、ニューヨークで買いに行こうと決めていた。帽子店の女子店員に尋ねるとすぐ近くだったので、早速出掛け灰色の1足を買った(4万円余)。この夜、ボストン行チケ

干し物野菜の専門店

18日は北米三菱の商社マ

ット変更の必要ができた日本のDNAへ電話した。午後11時から「混んでいますのでしばらくお待ちください」と言われつつ12時まで掛け続けたが、結局断りもなしに切れた。米国の旅行会社なら混んでおれば「こちらから後刻掛ける」と言って、対応するという。また、日本では格安航空券を予約すれば直ちに解約手数料を取るが、米国では1週間前までは解約自由だという。日本の業界は何か変だと感じた。

一流のジャズクラブ

夜は米国在住の男女と4人でNY・ブルーノートジャズクラブへ出かけた。ジ

ョーストレノ演奏、ブラジル人のケリーワナーのソロだが、ポルトガル語の歌。ジャズというよりシャンソンやボサノバのような感じ。置いていたのはヤマハピアノ。日野皓正や八代亜紀も出演した名門だが、事前に誰が出演かを確かめる必要がある。筆者は酒や煙草の煙が立ち込める場末のようなジャズを期待していたので、残念だった。同行女性がブルーノートへ入場寸前立ち寄ったマクドナルドのトイレへ財布を忘れていたことをホテルへ帰って気が付き、店へ電話したら、届けてくれてあった。NYも捨てたものでない。

賀川豊彦が留学

19日ニュージャージー州のプリンストン大学(1746年設立)へ寄った。ここは賀川豊彦が神戸のスラム街を後にして、2年間留学した大学で、国際交流の基礎を作った場所である。ただ、構内が広すぎて何処へ訊けば賀川の資料があるのか見当がつかない。同行の若松さんがボストンへは行かず、ここに残留という構内からNY中心部まで電車が走っており英語も達者なので、彼を残して私たちはボストンへ向かった。

新島讓が寄付集め

ボストンへは2時間遅れで到着、商社マンのKさんと会食した。彼は嫁に内緒で真つ赤なBMWを買ったものの、近日中に彼女が訪米の予定であり、どう説明しようかと頭を抱えていた。私達は「貴女への贈り物」と言えばなどと無責任なアドバイスをした。

翌20日は郊外の快適なマリOTTホテルを朝8時過ぎに出発、向かったのはマサチューセッツ州アンドーバーの米国超名門高校の「フィリップスアカデミー(PA)」。敷地619エーカーで東京ドームの54倍にもなるといふ。独立戦争最中の1778年設立で、同志社大学設立の新島讓の名が1867年卒業名簿に残っている。PAは750億円の教育資金を持ち、毎年14億円の奨学金を支給、全校の42パーセントが受給している。それでも学費は430000ド



妻に無断で買った赤いBMW



新島讓の資料庫(上)と図書館長(下)左から2人目



ポーツマス条約の資料残すマリOTTホテル



ポーツマス条約の資料



明治天皇の大壺



イチジクなど干し物並ぶ(東京秋葉原で)

ル(450万円)も掛かり全寮制である。ブッシュ大統領父(41代)子(43代)もこの卒業生である。新島讓は後年、再度訪問し同志社大学の前身を開設するため多額の寄付集めをしている。敷地内にはアートセンター、サイエンスセンター、ランゲージセンター、美術館なども設置されている。

私達が車を止めた場所がたまたま図書館の前だった。案内を乞うと館長のベイジロバツさんが2階の新島讓資料書庫へ案内してくれ、書庫の扉を開いてくれた。英文資料のためまだ解読できていない。

ポーツマス条約締結地

1905(明治38)年9月4日、日露戦争で大勝利を収めた後、米國セオドアルーズベルト大統領の斡旋でポーツマス近郊のポーツマス海軍造船所でポーツマス条約が調

印された。日本の全権代表は小村寿太郎、ロシア代表はセルゲイ・Y・ウイツテ。この条約で日本は、満州南部の鉄道及び領地の租借権、大韓帝国にたいする排他的指導権などを獲得したが、戦争賠償金は獲得できなかった。

ボストン市街地の日本料理店で天ぷらうどんを食べて、車で1時間の距離にあるポーツマスへ条約締結の島を探して行った。講和会議の公式会場はポーツマス海軍造船所86号棟。造船所はヒスカタカ川の中州にあり、水路の対岸がポーツマス市。日本とロシアの代表団はポーツマス市に隣接するニューキャスルのホテルに泊まった。日本全権代表が泊ったウエントワース臨海ホテルは、1981年閉鎖され

たままとなっていたが、その後マリOTTが買収して再開、現在は高級なリゾートホテルとなり盛況。造船所に「ポーツマス条約記念館」が存続さ

れている事は聞いたが、時間の関係でマリOTTホテルを訪ねた。

来訪の趣旨を伝えたが要領を得ない。そこへ呼んでくれたのが、ディレクター見習の若いヨシユアヤコプさん。彼はこの島の出身で、子供の頃からここを遊び場にしており、歴史に興味があつてポーツマス条約の資料にも熟知しているという。表に近いホテルの通路に關係の資料や明治天皇、ルーズベルト大統領、小村寿太郎などの肖像画の入った大きな壺などが展示されている。地下に降りる階段には「ポーツマス平和条約の道」というパネル表示もされていた。

玄関口には数本の桜が満開、松もなんだか日本風である。ヤコプさんに訊くと「日本から贈られたもの」との事だった。

イルチ東京セミナー

5月29日、東京渋谷区の区立勤労福祉会館で第3回IRCH東京セミナーが開かれた。東大、東工大、慶応大などの若者10人以上を含む百人が出席、人間文化研究機構理事でイルチ代表の佐藤陽一郎先生が「『農郷』というユートピア」について講演した。徳島からは林博章先生、つるぎ町榮高志協力隊員も熱弁を振るつた。

30日、東京六本木の新国立美術館で「ルノアール展」、六本木ヒルズ52階で「ポンペイの壁画展」をはじめ見学した。31日、徳島調停協会行の北海道新幹線で行く旅に東京駅から参加、函館、札幌、小樽を楽しんだ。

6月3日、中央大の学術講演会が徳島市のホテルクレメントであり、池田小中高卒で中大副学長の橋本基弘教授が「日常生活の中の憲法」について判り安い講演をした。